

釋風漁舟卜衝突

2118

供覽

軍務局

注

經理局

2119

同文書ハ既ニ覽入ル

大要機密第一五八號ノ六

昭和三年十一月十三日

第一課長海軍員大臣殿
大要機密部司令官

局員

一、關於津島及海軍部衝突事件詳報

此ハ海軍部司令官提出ノ文

右進呈ス

第一課長海軍員大臣殿

第一課長

一



法務局
3.12.18
接

3.12.19
接



官房
12.17
軍務

司令官

参謀長

参謀部

副官

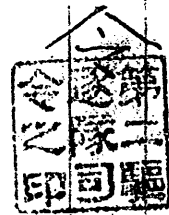
2120

驅逐隊司令官

昭和三年十二月一日

第二驅逐隊司令官

大湊要港部司令官



驅逐艦澤風及漁船衝突事件詳報 一通

右提出ス

(別紙添)

参

海軍



大湊要港部 二五八號 / 五

昭和三年 第二 巻 本納

昭和三年十月三十日

澤風駆逐艦長 柴田力

第三駆逐隊司令 澁谷莊司殿

漁船上衝突の詳報

本艦昭和三年十月十五日御大禮儀禮艦、任務を終へ
 小樽より大湊へ飯港、途午後二時十五分北海道後志國
 忍路港沖より原速十四節針路北六十一度西に航行
 中当時当直將校海軍大尉天本益次副直將校海軍
 特務少尉笠原貫二よりシカ発動機附漁船第三永福
 丸(総噸數九七)船長小川栄作船主北海道岩内郡岩
 内町大字御鉾内町一九一小川伊三郎)と衝突致し候
 一衝突状況

当時天候曇細雨風向東南東風力六ニシテ波浪稍
 高シ当直將校天本大尉ハ艦位測定ノ爲メ一時見
 張ヲ副直將校笠原特務少尉ニ委ネ艦位測定
 從事ニ終ラ海圖箱ヨリ離レ前方ヲ見タル右舷
 艦首三点約二百五十米(先キ提出セル概報ニハ百
 米トアルモ當時当直將校天本大尉ハ極メテ近距
 離ト思ヒ百米ト報告セルモ冷静ニ考フル駆逐艦カ
 三百米ノ常巨離ヲ編隊航行ヲナス時ノ巨離ニ比
 較シ約二百五十米アリシ旨報告ヲ訂正セルニヨル
 ニ第三永福丸ヲ認メ直ケシ汽笛短ニ聲取能
 一杯後進原速ヲ入ラシムルニ左圖ノ如キ對勢
 ニラ本艦右舷艦橋下舷側ト漁船ノ正首ト衝突
 セリ

注 頁

三三三

九圖

二損害程度

本艦右舷々側外鉸第三十九番ボーム附近上甲板様ヨリ

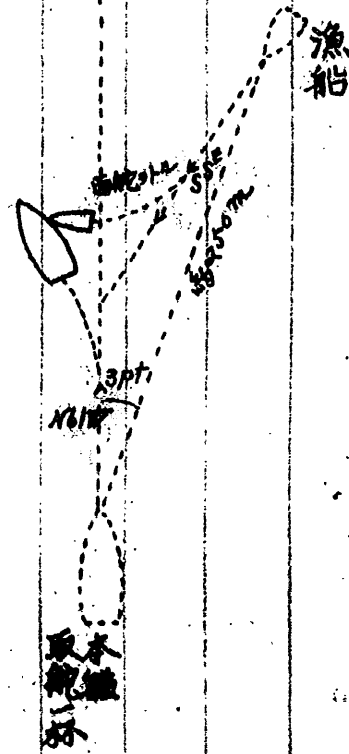
約二呎下ニ長サ約二呎六吋中約二呎深サ最大一吋

四分一、四ミツ生シタリ但シソリベツトニ異状ナレ

尚舷窓硝子一佃破損

漁船ハ船首ヲ破損シ発動機ノ前後進用ガラツケ不具

合トナリシ旨申出テタリ



三 衝突後ノ処置

小官ハ舷側異様ノ音響ヲ聞ケタルヲ以テ直ニ艦橋
 至リ前記ノ状況判明セシテ以テ直ニ漁船ニ横付スル如
 ク艦ヲ操縦シ漁船ニ船索ヲ取り船長ニ來艦ヲホメ
 先モ漁船ハウネリノ為メ意ノ如ク本艦舷側ニ着
 カサリシカ附近航行中僚船來タリソレテ船長本
 艦ニ來ル

小官ハ船長ニ対シ何故ニ避ケサリシヤ又本艦ヲ認メ
 居リシヤ否ヤヲ問ヒタルニ早クヨリ認メ居リ先モ軍艦ハ
 義務船ニテ本船ハ權利船ナルヲ以テ当然軍艦カ避
 クベキモノニシテ本船ハ衝突スル迄後進ヲ用テ直進ニ來
 タリシカ衝突ヲ免レサリシヲ以テ面舵ヲ取りタリト申立テタリ
 尚船首破損ニ対シ修理費幾何ヲ要スルヤヲ尋ネル

二約千圓ヲ要スト答ハ且ツ海事裁判ニ訴フル意志
 アリヤ否ヲ尋ネ先ニ訴フル意志ナシサレト軍艦ノ方ハ名
 譽言ニ関スルナラン千圓位ハ僅少ナルヲ以テ賞ヒタシト申
 立タリ

小官ハ權利船義務船ト云フモ衝突ヲ予防スル
 爲メ法規ニシテ愈衝突ニ直面セハ最善ノ処置取
 ラサルヘカラス本衝突ノ如キ相互ノ処置不適当ナリレ因
 ルモノニテ本艦ノミカ悪シト思ハスト述ヘ且ツ修理費千圓
 ハ過當ナリト思意シ又本船長ハ船難ノ子ナル旨申シ居
 リシヲ以テ歸リテ船難ニ親父ト相談ノ上申出ルモアラ
 ハ申出テヨ然ハルトスハ相当ノ見舞金ハ應ス旨ヲ言ヒ
 渡シ尚本艦ハ大湊要港部ノ附屬ニシテ小官ノ身
 分斯ノ如シト名刺ヲ與ヘタリ

尚船長対漁船ヲ本艦ニテ忍路港迄曳航スヘキ
 ヤト尋ネズ船長ハ單艦ニテ曳航ハ危険ナリ
 幸ヒ僚船来リ居ルヲ以テソレ曳キテ貫テ旨答ヘテ
 依テ小官ハ忍路港迄ヲ護衛シヤリタキ破損状
 況多ク特ニ其必要ヲ認メス且ソ本艦ハ明十六日
 午前中ニ大湊ヘ取港スヘキ任務ヲ有スルヲ以テ護
 衛セスト申渡シ該漁船ノ僚船ニ曳航セラレ帰途
 就テ見テ大湊ニ向ケテ出発十六日午前八時大湊
 ニ入港セリ

(終)